

令和6年度

伊沢小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

「聴く力」を大切にしたい学び合いによって深い学びができる児童の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 山下 真由美	委員 校長 佐藤 正彦 教頭 近藤 恭弘 坂東 恵理子(教務主任・研修主任) 松永喜代美(学力向上推進講師)
--------------------------	--

校長

佐藤 正彦

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○好んで読書をする子が多い。 ○GIGA端末の基本的な操作に慣れてきている。 ●読み書き、計算などの基本的な知識・技能が十分ではない。	①漢字や語彙の定着を図り、日常の中で使うことができる。 ②各教科の基礎・基本的な知識・技能をより確実に身につけることができる。 ③GIGA端末の基本的操作を身につけ、学習に活用することができる。	①漢字の復習小テストを繰り返し行い、文章を書く際は、既習の漢字を使うように指導する。 ②学級文庫を充実させ、読書活動や国語辞典を活用する学習活動を増やす。 ③タブレット端末を各教科で効果的に活用する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを表現できる児童が増えてきている。 ●問題解決の過程で数学的な見方考え方を働かせることが苦手である。 ●読むことができるが、語彙が少なく条件に従って文章を書ける子が少ない。 ●読解力が低い。	①目的に応じて、必要な情報を集め、自分の考えをまとめたり、表現上の工夫をしたりすることができる。 ②文章の要旨を伝えたり、問いの意図を正しく理解したりすることができる。	①子ども新聞や書籍、インターネットなどを活用し、情報を選ぶ活動を取り入れる。 ①-2GIGA端末やホワイトボードを活用し、個別やグループで考えをまとめ、発表する機会を増やす。 ②宿題やモジュール学習に読解プリントを取り入れて行う。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○素直で意欲的に取り組める児童が多い。 ○教え合い、助け合うことができる児童が多い。 ●学習規律が身につけていない児童がいる。 ●難しい問題に最後まで取り組むことや、疑問に思ったことを自ら調べようとする児童が増えてきているがまだ十分ではない。 ●一斉指導の中で聞いて課題に取り組むことが苦手な児童が多い。 ●集中して学習活動に取り組むことができる児童が少ない。	①相手の話をしっかりと聴いて、自分の考えを持つことができる。 ②自らの課題に根気よく取り組むことができる。 ③目的を持って、自分の力で学習を進めることができる。	①スピーチや話し合い活動を積極的に取り入れる。 ②ポジティブな行動支援を行い、学習に向かう意欲を高められるようにする。 ③学習のめあてをつかませ、まとめと振り返りをする時間を確保する。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

